

2011年度 1年 (総合A) 「総合選択科目」「自由選択科目」「進学・進路選択講座」年間授業計画と教材・教具についての集約用紙

※「総合A」の場合、担当者・対象クラスを⇒ ()、曜日 ()、校時、対象クラス ()
 ★授業(講座)の目的・内容と指導計画については裏面に参考例を載せましたので、参照して下さい。
 ★教材・教具の予算については、生徒1人ひとりの使用するものについては生徒負担が原則となっています。また、全体の予算との関係でとれる予算が決まって来ますが、とりあえず必要なものについてご記入ください。その際、生徒から集めるべきものところらで用意するものを一応分けて記入していただけるとわかりやすいと思います。
 ★様式が使いにくければ、別紙に記入して添付して提出して下さい。

【1】授業(講座)のテーマ・目的と内容

- ・「森林学習」をメインテーマとする。(以前のテーマ「里山創生」の追究は現状では困難)
- ・第二校地の特性を活かした「自然・環境と人との係わり」を学習する。
- ・ものづくりを通して、第二校地周辺の森林との係わりを学ぶ。

【2】年間の指導計画

1 学期	・第二校地のオリエンテーション・見学	4H
	・森林学習として ・第二校地と周辺の自然(森林)観察	4~6H
	・間伐材を活用したものづくり ペーパーナフ・竹バラック	6~8H
2 学期	・森林学習・環境学習 間伐、伐採の体験・見学 間伐材も利用した環境整備 道づくり、土留めづくり、除草など	10~12H
	・担当者による講座のローテーション	8~10H
3 学期	・講座のローテーション	10~12H
	・学習のまとめ	2H

※講座

- ・1年1~4組は2クラスずつの2グループに担当者3名が入って、講座を展開する。
(陶芸・ものづくり
からだ、農 など)
- ・1年5~7組は3クラス5名の担当で講座を展開。
(午前クラスと同様)
- ・2学期中間試験後を目安に、共同炊事との兼ね合いでスタート予定。

【3】講座に必要な教材・教具(校具)とその金額(予算) ※具体的な金額を示して下さい。

担当 (午前 101~4
森岩・山木・篠原
藤原・植野・山口
午後 105~7
森岩・山木・藤原
植野・山口)

2年.

2011年度 「総合A」 「総合選択科目」 「自由選択科目」 「進学・進路選択講座」 年間授業計画と教材・教具についての集約用紙

※ 「総合A」の場合、担当者・対象クラスを⇒ (木)曜日 ()校時、対象クラス (2年全クラス)

★ 授業 (講座) の目的・内容と指導計画については裏面に参考例を載せましたので、参照して下さい。

★ 教材・教具の予算については、生徒1人ひとりの使用するものについては生徒負担が原則となっています。また、全体の予算との関係でとれる予算が決まって来ますが、とりあえず必要なものについてご記入ください。その際、生徒から集めるべきものところらで用意するものとを一応分けて記入していただくとわかりやすいと思います。

★ 様式が使いにくければ、別紙に記入して添付して提出して下さい。

【1】 授業 (講座) のテーマ・目的と内容

【2】 年間の指導計画

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 総合Aのガイダンス・オリエンテーション 全講座の体験 (ローテーション) 講座の選択と調整、決定 講座のガイダンス 	2H 10~ 12H 4H 2H
2 学期	講座スタート 陶芸 (森谷) 鬼 (後藤・午前のみ) (解厚) 食 (井上) 環境 (高橋勲) 工芸 (丸山) からた (山口)	
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 講座 学習のまとめ 	

【3】 講座に必要な教材・教具 (校具) とその金額 (予算) ※具体的な金額を示して下さい。

ロープ からた・アスレチックづくり
 かあかん 環境・ベンチ、道づくり

2017年度「総合A」「総合選択科目」「自由選択科目」「進学・進路選択講座」年間授業計画と教材・教具についての集約用紙

- ※「総合A」の場合、担当者・対象クラスを⇒ ()、曜日 ()、校時、対象クラス (からだ講座)
- ★授業 (講座) の目的・内容と指導計画については裏面に参考例を載せましたので、参照して下さい。
- ★教材・教具の予算については、生徒1人ひとりの使用するものについては生徒負担が原則となっています。また、全体の予算との関係でとれる予算が決まって来ますが、とりあえず必要なものについてご記入ください。その際、生徒から集めるべきものこちらで用意するものを一応分けて記入していただくとわかりやすいと思います。
- ★様式が使いにくければ、別紙に記入して添付して提出して下さい。

【1】授業 (講座) のテーマ・目的と内容

- <目的> ・自分の体を知る (科学的にとらえる)
- ・生涯にわたり、健康やかに身を維持できるようにする。
 - ・生活・労働を支える体 → 生きていく為の体づくり
- <内容> ・体づくりに関連した基礎的知識を身につける「理論学習」
- ・日常的にとりくめる身体活動 (運動・遊び) と結びつけた「活動・実習」

【2】年間の指導計画

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・全講座オリエンテーションと選択・調整 ・講座からダンス ・自分の体を知る ・体を動かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック ・ウォーキング ・ストレッチング 	<p>2~4H</p> <p>2H</p> <p>8~10H</p>	
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「体」の認識を高める ↓ ・体を動かす ↓ ・より良い体をめざす 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポテ・バランス ・柔軟性・敏捷性 ・巧緻性などをチェックする 	<p>ウォーキング</p> <p>ストレッチング</p> <p>バランスボール</p> <p>バランス遊び</p> <p>2-7-7°、74スビー等</p> <p>縄とび</p>	<p>24H</p>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・寒冷期、「体」認識と体づくり ・室内・家庭での「体を動かす」 ・生涯にわたる「体・健康」のために... ・学習のまとめ 		<p>8H</p>	

【3】講座に必要な教材・教具 (校具) とその金額 (予算) ※具体的な金額を示して下さい。

- ・フリスビー又はフライングディスク 20枚
 - ・フープ 40本
- 2年「からだ」と共用。

学習日 9月8日(木) 午前・午後 天気(晴) 学習場所<屋外・屋内>

学習テーマ [構座のスタート]

学習(体験・活動)内容をまとめる
 ①) 1-トづくり
 ②) 2-トづくり 2~8人

感想: 学習内容で印象に残ったことや感想をまとめる
 今日から新しく1-トづくりの構座を
 スタートした。
 第二校地の山道は比較的高い
 草木が多く、そのおかげで太陽の光を
 さえきって涼しかった。

学習への取り組みを自己評価してみよう。0印
 よく取り組んだ 普通 取り組まなかった
 (1) | | | | |

指導者のコメント
 木の「かげ」だけでなく、風や土のおかげで気温が
 下がります。気持ちよいですね。

学習日 9月15日(木) 午前・午後 天気(晴れ) 学習場所<屋外・屋内>

学習テーマ [体を動かそう - ①]

学習(体験・活動)内容をまとめる
 暑い時の運動(生活)で注意する点
 熱中症 - 高い体温・意識もろろ・呼吸、吐き上げ
 脱水症状 → 血液パッドロ → 血栓 → 心筋梗塞
 水分補給 + 塩分プラス → 脳梗塞

感想: 学習内容で印象に残ったことや感想をまとめる
 今日は、先週より少し矢の方まで「ウォーキング」
 してきました。また、歩いていこうと、
 暑かった体が周りの気温のおかげで涼くなって
 きたので、歩いてきてよかった。暑い中歩くのは「つかれず」
 涼しい中歩いたりしたことで「つかれず」
 二本からほどほど歩こうと思っています。
 がんばろう!

学習への取り組みを自己評価してみよう。0印
 よく取り組んだ 普通 取り組まなかった
 (1) | | | | |

指導者のコメント
 「歩く」とは、走るの基本的動作です。しっかりと
 歩くことは、しっかりした運動の基礎をつくれます。

学習日 9月15日 (木) 午前・午後 天気 (晴) 学習場所 < 屋外 屋内 >

学習テーマ [体を動かす - ①]

学習 (体験・活動) 内容をまとめる
 暑い時の運動(生活)で注意すること
 熱中症 → (高い体温、意識がぼろろ、呼吸、心拍が上がる)
 脱水症状 → 血液がドロドロ → 血栓 → 心筋梗塞
 水分補給 + 塩分補給 → 脳梗塞

感想：学習内容で印象に残ったことや感想をまとめる
 今日は結構暑かったから
 ちゃんと歩けるか心配なところも
 日が当たらない場所を歩いていた
 おかげで思っていたより楽しく歩けた。

学習への取り組みを自己評価してみよう。0印
 よく取り組んだ 普通 取り組まなかった
 (i) i i i i

指導者のコメント
 楽しいし、楽に歩けましたね... 炎天下のウォーキング
 は体にはマックスが多いです。* 正しい姿勢で歩くと
 楽になります。ちゃんと
 呼吸をしながら歩くと

学習日 9月15日 (木) 午前・午後 天気 (晴) 学習場所 < 屋外 屋内 >

学習テーマ [体を動かす - ①]

学習 (体験・活動) 内容をまとめる
 暑い時の運動(生活)で注意すること
 熱中症 → (高い体温、意識がぼろろ、呼吸、心拍が上がる)
 脱水症状 → 血液がドロドロ → 血栓 → 心筋梗塞
 水分補給 + 塩分補給 → 脳梗塞

感想：学習内容で印象に残ったことや感想をまとめる
 今日は結構暑かったから
 ちゃんと歩けるか心配なところも
 日が当たらない場所を歩いていた
 おかげで思っていたより楽しく歩けた。

学習への取り組みを自己評価してみよう。0印
 よく取り組んだ 普通 取り組まなかった
 (i) i i i i

指導者のコメント
 楽しいし、楽に歩けましたね... 炎天下のウォーキング
 は体にはマックスが多いです。* 正しい姿勢で歩くと
 楽になります。ちゃんと
 呼吸をしながら歩くと

2011/8/6.7.8

第50回教育科学研究会全国大会・身体と教育部会実践報告
ベーシッククラスにおける「からだ」の学習

私立新名学園旭丘高等学校
宮川 雅道

1、旭丘高校の不登校生受け入れの制度（ベーシッククラス）について

ベーシッククラスとは2010年に誕生した不登校生徒の発達保障にかかわる特別クラスの中で、このクラスの性格は①全日制高校の教育課程を履修するものであること、②不登校生徒の発達の課題に照応した「基礎学力の回復」「交わりと自立・社会性の育成（ホームルーム指導、学年・全校集団づくりの課題）」「進路とキャリア形成（進路指導の課題）」の3本柱を重視したカリキュラム編成がとられており、③ホームルームや生徒会の活動、クラブ活動などにも参加し、2年次には一般クラスに移行することを原則としている。また、単位修得に関しては一部の科目において今年4月1日付けで文部科学省より認可を受けた全日制における通信制の教育方法を用いた単位認定（卒業に必要な単位数74単位中36単位まで可能による方法も可能とする教育課程運用を現在本学学内で検討中）をもって卒業資格を取得するというものである。

※上記文章は、平成23年6月21日付け・学校長名発行プリントの「学校案内（ダイジェスト版）の送付およびその他の入試情報に関するお知らせとお願い」・「不登校生の発達保障にかかわる募集について」より、その一部を抜粋し引用したものである。

2、ベーシッククラスにおけるからだの実践

からだの授業は2003年度より旭丘高校の総合学習の選択授業の1つとして開講され、2007年度からは総合技術科（※注1）という教科に属して実践を行っている。ベーシッククラスにおいては2010年度より必修授業となり、生徒の未発達問題解決のための授業を実践している。

ベーシッククラスは小学校中学校に通えなかった生徒が在籍しており、適応指導教室などに通室していた生徒や発達障害を抱え対人関係がうまく作れない生徒が在籍しており、特に初年度のクラスにおいてこの傾向が強く、通常クラスの生徒が抱える未発達問題を上回る指導困難さがあった。現在も何かしらの問題を抱える生徒は多く在籍しており、このような状況から彼らの未発達問題をこころとからだの両面からとらえ、現在の自分と向き合うことを出発点としたからだ・こころ・命の学びを深める実践を目指して取り組んでいる。（他者と比較することなく自らの課題を乗り越える力を身につけることを出発点とする）

利

※注1「総合技術科とは」

普通教育に初めて誕生した技術教育教科で、製図・コンピュータ技術・農業・陶芸・からだとそれぞれが異なる専門性を持った教師集団であり、総合学習に根ざした教科として「生活に必要とされる学び」をキーワードに実践を積み重ねている教科である。

※机上論ではなく実体験から学ぶことを共通して行っている。

初年度のベーシッククラスでは1単位授業（45分）であったため、総合学習時間枠の2単位（90分）授業で積み重ねてきた実践ができず、第二校地という豊かな自然環境を生かした取り組みもできなかったことから生徒間からも時間を増やしてほしいという要求が出された。このことをうけて、今年度のベーシッククラスから2単位時間が保障されたことは大きな前進である。また、からだの授業は総合学習としての位置づけが大きいことから、学んだ内容が多くの教科とリンクしていけるよう意図的に展開している。

この授業で大切にしている目的は以下のとおりである。

からだ講座・3つの目的

- ① 自分を知ること（わかること）
- ② スポーツ・生活・労働に役立つからだの学び（人間らしい生活）
- ③ 生涯に渡って健康に生活するための知識技術を身につけること。

3. ベーシッククラスの生徒実態（生徒のからだを出発点にした実践）

ベーシッククラスに在籍する生徒の多くが昼夜逆転などの生活の乱れを経験しており、それらは学習ノートの感想などからも明らかにされている。

このクラスの生徒たちに必要とされているのは、いわゆる「普通の生活習慣」を取り戻すことであり、特別な知識や技術を教え伝えることよりも、自身が存在していることの意味や、生きていることの意味、仲間との交わりなどを実感することが優先であると考えた。

（知ること、気づくこと、わかることのきっかけをつくる。）

現代の高校生に共通することでもあるが、彼らは感情のおもむくままに行動することはできても予期せぬ状況におかれた時に回避する力や行動する力に弱く、マニュアル通りに事が運ばない状況を乗り越える力が弱い。

どうにもならない場面に直面したとき、人は考えようとする。考えることをせず、思うままに生きてきた時間が長い彼らにとっては「考える」という行為自体が自分を変えるきっかけになっていくのではないか。そこで、自分の力ではどうにもならない大きな空間の中で活動させ、互いに協力することで「考える」ことや「交わり」を育て、森林という空間を教場とする中で五感を働かせながら活動する意味を学ばせることにしたのである。

このような環境での活動が彼らの持っている可能性をひろげると考え、1学期の内容については「森林における身体活動」を基本としながら、食生活習慣や睡眠時間など、生活の基本となる「食べる・寝る・活動する」という3つの視点で捉えながら進めてきた。

「グミ食べたけどすごい苦かった。苦イチゴが甘くておいしかった。1年A組男子」

「野イチゴがおいしかった。自然であんなに甘くなるなんて思ってなかった。そして、あんなに多くの種類がこの山にあるとは思わなかった。1年A組男子」

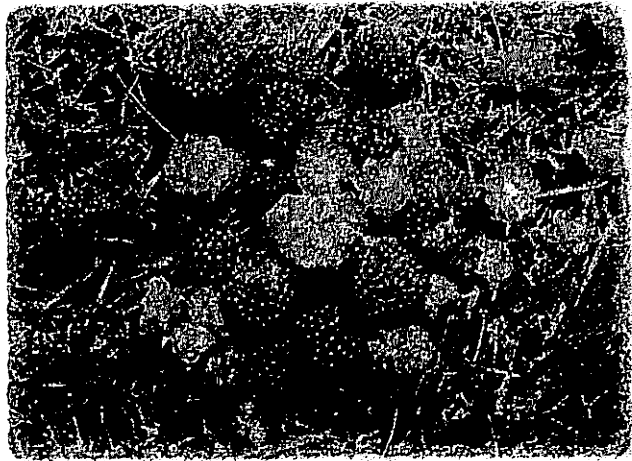
「グミの実、結構おいしかったです！ただ、食べた後口の中がざらざらするのが気になりました。1年A組女子」

「すごく楽しかったです。道にあるものをそのまま食べたのも初めてで、ラズベリーもおいしかったです。1年A組女子」

「はじめてのグミはびみょうな味でしたが苦イチゴはおいしかったので、良かったです。食べ物も空気も自然はいいですね。

1年A組女子」

「先週に引き続いて自然の実を食べました。グミだと言われた赤い実は食べた瞬間に舌にザラザラとした感覚で微妙だったけど、自然のものってそういう感じなのかなあと思いました。自然の物のおいしさを、もっとよく知りたいと思いました。1年A組女子」



「森林ウォーキング」より生徒の感想

「自然の中を歩いて自然の良さを知った気がしました。土の柔らかさや空気、自然、川の音、虫の声など、普段とは違って思うことがたくさんありました。1年A組女子」

「ウォーキングに行く前はいろいろしていたのに、帰ってくる頃には気分がすっきりした。1年A組男子」

「今日は森の自然を知りました。森の匂いがしました。川があつたり動物の鳴き声が聞こえたりしました。1年A組男子」

「山を歩いてからだがすっきりしました。気分いいです。体が軽くなりました。

1年A組女子」

「風が気持ち良かったです。気持ちがすごく落ち着いて疲れが取れました。自然の力ってすごいと思いました。とても楽しかったのでまた行きたいです。1年B組男子」

「今日はウォーキング楽しかったです。風が気持ち良かったです。前は歩くことが嫌いだったけど今は楽しいです。この授業一番好きかもです。1年B組女子」

「第二校地にこんな場所があるんだって驚いた。久しぶりにこんなに歩いた。お弁当持って登りたい。1年B組女子」

「森林に入った時、空気が変わったことがわかった。涼しくていい風だった。今度一日かけて行きたいと思った。1年B組女子」

「マイナスイオンが気持ちよくて頭のリフレッシュができました。自然の中で勉強できるとすごい気持ちいいです。1年B組男子」

「森の力を感じることができた授業でした。冬に氷柱が見れるなら見てみたいです。森は歩くだけでも疲れましたが、いやな感じではなく、さわやかな疲れでした。1年B組女子」

「坊所川トレッキング」より生徒の感想

「今日は最高に楽しかったです。最初は飛び込みをするつもりはなかったけど、飛び込んでみたら気分がすっきりしました。いい思い出になりました。1年A組男子」

「とても楽しかったです。でもすごくつかれた。川はけっこうつかれますね。でも8回飛び込むの楽しかったです。1年A組女子」

「石などですべて痛かったけど、楽しかったです。ジャンプは怖くてとべないと思ったけど、みんなと一緒にとんでくれて飛べました。すごく楽しかったです。1年A組女子」

「川に行ってそんなに深いところまでいかないだろうと思っていたのですが、以外と深く、腰まであって驚きました。岩場でも思っていたより滑ってたくさん転びました。バランスをとるのが難しく友達に手を貸してもらいながら進んでいきました。めちゃくちゃ大変だったけど、経験できてすごいためになったし、楽しかったです。1年A組女子」

「ただただ、ひたすら楽しかったです。ずっと楽しみにしていたから川を歩いたり飛び込みできて良かったです。みんなと助け合いながら楽しめたので本当によかった。からだの授業が大好きだと再確認できました。1年A組女子」

「飛び込みまくってストレス発散になりました。最後の方はいろいろあったけどクラスのみんなを支えあっていくということを再認識できたよい一日だったと思います。1年B組女子」

「飛び込みが超気持ち良かったです！ゴツゴツした道を歩いてみて歩きにくかったけど、楽しかったです。普段使わない筋肉を使ったので体中がめっちゃいたいです。もっとあの場所にいたかったです。森林に行つてすごいリフレッシュできました。1年B組男子」

「周りが360度自然で、動き回るのが大変でした。自分のバランス感覚がないことがわかりました。何より楽しかったです。1年B組女子」

「とびこみが楽しかったです。自然との一体感がよかったです。1年B組男子」

「なかなか楽しめた。川の水は冷たかったが気持ち良かった。いろいろと気分が和らいだ。心を空っぽにできた。1年B組男子」

「水がすごい冷たかったです。力を入れて踏ん張っていくのがなんだか楽しかったです。飛び込みはあんなに高くて絶対痛いと思っていたんですけど、水が受け入れてくれて浮いた感じが気持ち良かったです。足場が見えない難しい状態だから、濡れたくないとか汚いとかどうでもよくなって、クモも気にしなくなって自然と一緒になれました。1年B組女子」



森林ウォーキング/箱根・塔の峰山頂付近

旭丘高校のからだづくり 総合学習における取り組み

神奈川・新名学園旭丘高等学校 宮川 雅道

1. はじめに

旭丘高等学校は神奈川県小田原市にあり、普通科総合学科の二つの学科をもつ共学校です。普通科主体の城内キャンパス・総合学科主体の久野・荻窪キャンパスがあり、「からだ」の授業は久野・荻窪キャンパスで実践しています。久野・荻窪キャンパスは、小田原市と箱根町の中間にあり、杉・檜の人工林が連なる箱根外輪山の一部に位置する、自然環境豊かな校地です。

2. からだづくりの必要性

久野・荻窪キャンパスは、陶芸や農業・森林学習を中心とした総合学習の教育実践の場とし

の原因が、生徒のからだにある場合と生活環境にある場合とを見分けてのからだづくりでなければ、彼等にあつた解決策が発見出来ないばかりか、自分の環境に合ったからだづくりもできないと考えます。からだは一生付き合うという認識を持たせ、自分の意思でコントロールする力を身につけることを以下の目的に重ねて取り組んでいます。

- 1 自分を知る(自分のからだに気づく)
- 2 スポーツ・労働・生活に役立つからだづくり

て二〇〇二年度に誕生しました。陶芸では土練りや「ろくろ」を使った作業、農業では畑を耕し、森林学習では森の整備に取り組んでいますが、授業が進んでいくなかで、工具や用具を正しく使えずに作業や製作活動に困難をきたす生徒が多く見られるようになってきました。そこで、生産・労働にかかわるからだや、生活を支えるからだという視点で捉えた際の身体的未発達が校内で問題となり、生きることにかわるからだとづくりの必要性から、〇三年に「からだ」の授業が誕生したのです。

3. からだづくりの目的

「ものづくり」の現場から捉えた身体的未発達

- 3 生涯に渡って健康なからだを保つために、必要とされるからだの知識・技術を学ぶ

また、森林に囲まれた久野・荻窪キャンパスという環境にあつて、「からだ」と同時に「こころ」も含めた二つの面から健康な状態に戻し、それを生徒自身が発見・つくり直す力を育てられるような授業展開でなければ、校地特性も生かされないと考えました。そこで、室内実践だけでなく周辺の自然環境をフィールドとして捉え、並木路でのストレッチや森林ウォーキングなどを行ない、日常生活では味わうことのできない大自然のなかで、心身ともに開放された授業実践を積み重ねています。

4. 生徒を取り巻く生活環境

技術の進歩は私たちの生活を大変豊かなものへと変えてくれました。しかし、エアコンや全自動家電等による人工的管理の快適さのなかで、本来必要なからだの機能・役割が忘れ去られているように思います。全身を使う身体活動

「子どものしあわせ」
二〇〇二年一月五日



からだのバランスチェック・授業風景

は減少し、同一姿勢で特定箇所に疲労が集中するようになる動作が多くなりました。つまり、使えるはずの機能を使わなくなる生活になっているのです。自己管理で改善できる生活習慣の乱れや運動離れだけが原因ではなく、「生活するからだ」を取り巻く環境の変化も「からだのおかしさ」の一因ではないかと考えています。

5. 生徒のからだ実態から

このような背景から、まずは彼らの「からだ

実態」を明らかにすること、そしてそこから見えてくる「からだのおかしさ」を改善させることの二つを中心に取り組んできました。

体育の授業以外に運動習慣が身に付いている者はごくわずかです。運動部に所属する生徒よりもアルバイトをしている生徒が多いという現実があります。そのため、生徒は授業を受けるまでからだに起きている「おかしさ」の原因すら分からず、改善方法さえ分からないまま生活していました。からだの一部に負担のかかる生活は左右・前後の筋力や柔軟性にアンバランスを生み出しているのだと思います。

体力的にはまずまずの力を発揮できているのですが、その力を運動や生活場面での力として発揮できない生徒が多く、これは運動能力と体力のアンバランスとみることが出来ます。「自分の意志でからだをうまく使えない」、「思ったとおりに、からだを動かすことができない」という生徒の多くは、からだを開放できない状態なのだと思います。日常で繰り返されてきた生活習慣を改善することにより、からだの balan

スは取り戻すことができることを伝え、どのような状況におかれても自らの力で「からだ」を守り育てる力を養うことが、生きて働く力に結びついていくのだと、彼らに繰り返し伝えていくのです。

6. まとめ

現代は豊かな時代となりました。しかし、その豊さが人として生きるために必要なからだの機能・役割を後退させているのかもしれない。人は考える動物です。意識的に働きかけ、意欲的に取り組めば、「からだ」だけでなく「こころ」も開放しながら自分にあった身体発達が出来ると考えています。

「どの子にもその子なりの発達がある」という考え方をもち、「からだの機能・役割は他者と競い合うものでなく、生活習慣や行動を振り返ることによって、発達要求や改善要求につながる」という考えを生徒に伝え取り組まなければ、彼らの未発達は変わらないと思います。生きて働くために必要となる「からだ」の役割を認識させ、一生涯付き合う大切なからだであること、を教え伝えていきたいのです。

授業を通じて、「からだ」「こころ」、そして「命」の大切さが分かる実践を、今後も、生徒と共に考え深められるよう取り組んでいきたいと思えます。

あなたとともに
福祉の未来をひらく

福祉のひろば

1 2008 ●定価 525 円
月号 (税込・送料別)

特集 その人にとっての自立とはなにか
住まい・地域・つながりから考える

【座談会】西口宗宏 (ウエルフェアマンション・おはな代表)

江藤弥生 (すみれ乳児院 保育士)

播本裕子 (大阪障害児・者を守る会 副会長)

【インタビュー】

わたりの手帳をこころの鍵として開放し平和を要求する 小川政亮

定期購読(年間 6300 円/税・送料)

★見本誌(旧号)もごさいます★

総合社会福祉研究所

〒543-0055 大阪市天王寺区西田町9-12

TEL06 (6779) 4894

FAX06 (6779) 4895

http://www.sosyaken.jp

園を渡っていた下君が母の車からおりて保育園の玄関にはいると「○○ちゃん来てよ」と、仲良しの名前をあげる。細川さんは、そういって下君に「自分の心の声で聞かせてきたのではないか」とその成長を感じている。とにやがや笑みをたたえられて報告を結ばれた。

神奈川県小田原市・新名学園丘高校・宮川雅道さん

新名学園丘高校の久野・荻原キャンパスでは、箱根外輪山の自然環境を生かして、陶芸の土作り、農業の耕作、森林の環境整備など様々な生産労働に関わった体験学習を開始した。しかし、作業や製作に関わった生徒のからだから「未発達」「発達困難」という問題状況が見えてきた。そこで「からだ講座」の必要性が認識され、宮川さんがその講座を担当することになった。

宮川さんは、生活を支えるからだが出来ていないという観点で、健康な生活を営むための技術・知識を身につけて、生活や労働を支えるものづくりに関わるからだづくりをポイントに置かれた。まず、生徒のからだの実際の明らかになり、からだのおかしさを改善させるために自分のからだを見つめ直すことに取り組まれた。幸い森林に囲まれたキャンパスは、閉じていた生徒の心身をほぐし開放するには絶好の条件であった。グラウンドや球技コートが利用できないという制限の中、周辺の森林すべてがフィールドであった。広葉樹林の並木路でのストレッチ・森林ウォーキング、清流の中を歩きながら上流を目指すトレッキング、作業棟前のアスファルト駐車場のスキ・ヒノキの角材をアスレチックに見立てたバランス遊び、枝打ちしたスキの棒・ヒノキの木っ端を用いた教材等を工夫した。固定観念にとわれない独自のアイデアで利用できるものは全て取り込むような教材開発だった。

その授業例、スキ材を利用した丸太投げを森林内で行ったところ、「汚れる」「虫がいる」と文句を言った生徒が、始まってみると「面白い」と言っただけになって嬉しそうに投げ始めた。また、障害を抱えた歩行困難な生徒に対しても、他の教師や生徒と共に森林ウォーキングを体験させることが出来た。

はスクールバスで通学している。3時半を過ぎると子どもたちは1人もいなくなる。休み時間は外で遊ぶ子どもはいない。みな、体育館で遊んでいる。中には一輪車で遊んでいる子も、2、3人いる。体力・運動能力テストでは、全国的には「極化」しているといわれるが、学校の子どもたちは低い水準に「極化」している。

◇ 園遊には自分自身に自信のない子が多い。心の育ちそびれを痛感している。しかし、そういう自信がない子でも、小さい時に地域でのお祭りに参加して、お祭りだったら上手に運営できるという特徴があった。そこで、学校内でも体育祭の運営委員をつとめたり、すく活発に生き生きと参加した。体育祭は学校では行事として位置づけられているが、その中で子どもが自分自身の特徴を発見でき、自信を持つようになることは、学力という考え方を見直す必要もあるのではないかと感じる。

◇ 今日の管理室で、システム化された環境の中で、細川さん、宮川さんの報告は、私たちが目標とする実践のあるべき姿を、みごとに表現してくださったのではないかと感じる。子どもからの学習や遊びのなかでの追求が、子どもとの向き合いから深く心の問題に関わった報告になり、参加者の感銘をよんだのではないかと感じる。

櫻井アキ子

△ 提案の先生のお話、小田原の先生の話も聞いて、やはり子どもたちには様々な体験の機会を持つ大切さを再確認した。と同時にそれぞれの地域で体験するチャンスを提供する必要性も感じた(教員)。

△ 自己肯定観を持つていく生徒が多く、又、その中で自分に自信が持てずに自己開放ができていない生徒とどう向き合おうかという方向性も、そのヒントをもらえたらと思いましたが、とても楽しく報告を聞くことができました(東京・教員)。

△ いなか育ち、いなかが住居ですが、車の移動がほとんどで、たまたま東京に行くとき歩いていても疲れることを実感します。報告者の話を聞きながら昭和39年生まれの自分は近所の神社で年齢の近い子で、まだたぶん

でき、その生徒から「貴重な体験ができてありがた」という笑みいっぱい謝意をもちました。その数々の苦行が実って、今では生徒の興味・関心を引く人気のある授業になったというのが宮川さんの受け止め方であった。宮川さんは「発達困難」という問題の背景から、生徒たちの生育環境では「好奇心」や「冒険心」という遊び心をくすぐるような感性が育ちにくいのではないかと、幼い頃に経験するであろう山遊び・虫取り・川遊びといった次に何が起るか予測できない環境の中で全身の神経を張り巡らせ、想像力を働かせ「五感を通して学ぶ体験・環境」にぜひと指摘している。だから、からだ講座を体験した生徒の感想は実に率直である。

1年女子の感想「トレッキング/沢登り体験」……とにかく楽しくて仕方なかった。沢登りなんて小学生以来でした。なかなか機会が無かったので、先生が「沢登りをする」といつかたきにはすこうれしかったです。川に入った時は水の冷たさが新鮮でした。サブサブと気にせずにとんとん先に進んで歩くのは時間を忘れてしまふほど楽しくて、気がついたらゴールの大岩より行ってしまいました……。大岩からのジャンプは楽しくてもう一回やりたいです。帰りの時は上ったり下がったりで疲れているはずなのに、まったく思切れていなくてびっくりしました。また機会があったらもう一度いきたいです！森っていいですね！もろもろ川もー

報告者は、実にまめに教師の働きかけや生徒の反応、特徴的なからだの様子について身振り手振りを交えて表現され、報告内容とともに参加者に感動を与えた。

フロアからの報告

二二の報告後、参加者から次のような発言があった。

◇ 小学校の子どもをみていると、のんびりする時があるのかなと思う。学校を終わる前、遊び事がある。地域のクラブに入っているも、そこには大人がいる。子どもたちは、朝から晩まで大人がみている世界にいて、自分たちが聞いかけたり、工夫したりする経験が乏しいのではないかと。

◇ 報告者の細川さんと同じ地域の小学校に勤務しているが、子どもたちつなぎ鬼(助け鬼かな)を目が暮れるまでしたり、神社の柱を伝って屋根裏に上がったたりした、体をつかって遊んでいたことを思い出します。最近では、神社で遊ぶ子どもを見られなくなりました(新潟県・三条市)。

△ 細川さん、宮川さん、大変ありがたかったです。お二人の日々の実践が真剣で、子どもさんや生徒さん達のため、日々がんばっているという姿が、ひしひしと感じられました。受けもたれている子どもたちも生徒さん達も大変、助けられていると思います。すばらしい日々の実践を話していただき、本当にお疲れさまでした。これからも健康に気をつけて活躍して下さい。

△ 今日のお二人の報告は、主として、生活経験レベルの「からだ」の話でした。しかし、学校教育の取りくみで生活の中での「むしほまれ」を克服(取りもどす)とする場合「総合」等での取りくみは、時間的にもカリキュラム的にもワンポイントの刺激に止まらざるを得ないように感じます。学校教育全体を「生活学校」にしてしまつと、今日の子ども(や親)の生活をすくかり昔の生活にもせぬ以上「学校教育」なかんなく教科は何をなすべきかが問題となる必要があると思えます。

この中で聞かされた、私は、宮川先生の「からだの授業」とは異なる、も一つの「からだの授業」を体験しています。それは、旧浦和商業高校定時制が、学校カリキュラム全体の再構築を「八つの方」として試した時に、その一つとして構想された「教科」としての「からだ学習」であり、その内容は「和太鼓・スパーン」などの文化の学習と「からだからからだ」のコミュニケーションと自己認識の学習でした。

この画面の「からだの学習」の往還という点にこそ、今日求められている「からだ」の課題があると感じました。(東京・大学教員)

フオーラムの始めでは「発達困難」を共通化する提案として、記録者から子どもからの心・連絡を全編「子ども」からのおかしな『年表』が読み上げられたが、この記録では割愛した。子どもも多難の時代に、

「子どもがしあわせ」ニ。〇。〇年一。二回

校地内の清流をのぼる「沢登り体験」

新名学園旭丘高等学校一・二年

◆「沢登り体験」……とにかく楽しくて仕方なかった。沢登りなんて小学生以来でした。なかなか機会が無かったので、先生が「沢登りをする」っていったときにはすごくうれしかったです。川に入った時は水の冷たさが新鮮でした。ザブザブと気にせずにとんとん先に進んで歩くのは時間を忘れてしまうほど楽しくて、気がついたらゴールの大岩より行ってしまうました……。大岩からのジャンプは楽しくてもう一回やりたいです。帰りの時は上ったり下がったりで疲れているはずなのに、まったく息切れしなくてびっくりしました。また機会があったらもう一度いきたいですー森っていいですねーもちろん川もー(二年女子)

◆普段、歩かない川での歩き。しかも自然が多く不安定な場所で歩く。川を歩いていると初めてみる虫が多く少し怖かった。森の中はマイナスイオンが多く含まれている。その中を歩いて行く……。自然を感じることができた。(一年男子)

◆川の流れが速い場所、深い場所、つかまる石がない場所など、いろいろな障害物があって転んだり困ったりしたけれど、登りきったときはすっきりした気持ちになれてとても貴重な体験になった。沢登りで少し足が鍛えられたり、バランスがよくなったんじゃないかと思う。川の流れの音や森のにおいなど、普段は感じられない自然のすばらしさも同時に感じることができた。(二年女子)

◆クモの巣があったり木がじゃまだったり、石がゴツゴツして歩くのが大変でした。深さも場所によっては深くなったり浅くなったりして慎重に歩きました。みんなで行った楽しさと自然を楽しめました。人との交流も大事だと思ったり、たまには小学生のように川や山で遊ぶのもいいと思いました。あとは、最後にダイブをみんなですて、とてもスツキリしました。また行きたいです。(二年女子)

◆私は小さい頃、川に入った山に入って遊んだりしていました。けど、この歳で山や川に入ったのは久しぶりだったので、すごく楽しかったことがたくさんありました。小さい頃にはあまり気づかなかったことがあります。こんなに森や川はキレイだったんだなと思いました。(二年男子)

◆沢登りを初めてして、不安定な場所や水の勢いや、普段の生活からは得られないものを感じる事ができました。森の中の川なので、サワガニやいろいろな生き物がいてマイナスイオンも感じることができて良かったです。足場が悪い中、私からただはその場を乗り切るために頭でなく、本能か何かがあ

若いこだま・若もの広場

らわれてからだが動いていたと思います。(二年女子)
◆ほとんど足が見えない中で歩くのは怖いはずなのに怖くなくて、どんどん進みたいし、この先何があるのか？を考えてどんどん進んでいってととても楽しかった。(一年男子)

◆箱根外輪山の中で、授業中に沢登りをしたことは、すごい体験になった。気分がさわやかになったし、何となく、元気が出てきたと思う。昔から、山や川には、人間的な力を回復させる働きがあると、先生はよく言われていたが、僕にはその言葉通りの効き目があった。(一年男子)

※本年八月四日に行われた第四九回教育学科学研究会・北海道民教合同研究集会「教育問題フォーラム」における宮川雅道氏(神奈川県小田原市・新名学園旭丘高校)の「自然と共に学ぶ旭丘高校のからだ講座の実践」報告の一部を引用させていただいた。

高校生がためになる 親子向き「今すぐ始めよう！早起き 早寝 朝ごはん」

「子らも早く寝て早く起きよう」
二〇二二年十一月

教育科学研究会 宮島道正

この八月七日、法政大学で開かれた第五〇回教育科学研究会全国大会時に、新名学園旭丘高校の宮川雅道さんが実践「ベータシッククラスにおける『からだ』の学習」を報告された。全文一六ページになるレポートと、香川靖雄さんと神山潤さんによる「今すぐ始めよう！早起き 早寝 朝ごはん よく寝、よく食べ、元気に活動」(少年写真新聞社版)(以下「早起き 早寝 朝ごはん」と省略)からの参考資料を教材として生徒に活用されているとして配付され、綿密で心温まる実践事例を話された。

参考資料の本を手にとってみると、「早起き 早寝 朝ごはん」の全体は、三部構成で、第一

日本の子どもたちの夜ふかしは世界的に突出

ベータシッククラスとは、二〇一〇年から旭丘高校で始まった不登校生徒受け入れ制度による学級の名称である。宮川さんによれば、「在籍する生徒の多くが昼夜逆転などの生活の乱れを経験しており」、このクラスの生徒たちに必要とされているのは「普通の生活習慣を取り戻すことであり」「自身が存在していることの意味や生きていることの意味、仲間との交わり」などを実感することが優先することであると考えられた。そこで選択された内容が「森林における身体活動」を基本に据えながら、生活時間や食生活の改善を認識する授業であった。

過去に不登校だった高校生に対して宮川さんは、「早起き 早寝 朝ごはん」六ページの「データで見える現代の子どもの生活習慣」を資料として示され学習を展開された。このデータは、(財)日本学校保健会の平成一八年度 児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書」をグラフにしたもので、①「就寝時間(調査前日)

部では、神山潤さんが「早起き早寝」を扱われ、第二部では香川靖雄さんが「朝ごはんの大切さ」に言及され、第三部は「生活習慣を見直して健康に」という総論部分になっている。前書きからあとがきまで六二ページで分厚くないにもかかわらず、内容がすごく詳しいし、カラルでも活用しないと、もったいない、という印象を受けた。利便性を配慮されページがふられていない五六ページにあたる付録一では、「お子さまの生体リズムチェック」用紙が用意されていたので、この本の読者層が家庭の保護者を対象にしていることも推察できた。

の平均値」、②「睡眠時間の平均値」、③「睡眠不足を感じている者の比率」、④「睡眠不足を感じている理由」をもとにして、日本の子どもたちの夜ふかしは世界的に突出していて、睡眠時間が短いので寝不足を感じているものが多いことを把握された。宮川さんは、「早起き 早寝 朝ごはん」一〇ページから「世界一眠らない日本の子どもたちと生活習慣」を引用され、「日本の中学生は、米国よりも三〇分、ヨーロッパの国々よりも九〇分以上(特にスイスとの比較では約二時間半も)睡眠時間が少ない」のです、と力説された。ここで役立ったのが、「早起き 早寝 朝ごはん」の二二ページにある「夜ふかしするほど眠れなくなっていく」という見出しのもとに書かれていた、さまざまリズムを整える「生体時計」の役割についてであった。

「それ、よくわかる」「ううん反応」
生徒の多くは朝食を抜き、運動もしないで、心身のバランスを崩して引きこもった生活を続

けていた。逆に夜は眠れないために携帯電話やパソコンをいじり、音楽を聴いたり物を食べたりにしていた。それは脳が覚醒してさらに眠れなくなるという悪循環を作り出していた。ここで宮川さんは、「人はなぜ明るい時間に活動し、暗い時間帯に休息するのか？そのこと自体がからだの発達や健康にどのような効果をもたらすのか？」についてまで学習を拡大。脳内物質であるセロトニン（歩行や咀嚼、呼吸、朝の光で活性化）とメラトニン（夜暗くなると分泌される）についても、黒板に大きく書き出して「早起き 早寝 朝ごはん」、一五ページ「ホルモンのリズムの乱れ」、二五ページ「低セロトニンでキレやすい子どもに」等を利用しつつ説明された。

こういう流れを経ると、最初は気乗りしない感じの生徒のほとんどがうなずき始めた。「それ、よくわかるー」と半分苦笑いを浮かべながら他の友だちと顔を見合わせながらうなずく姿も見られた。そこには、自身がきちんとしないから不登校になってしまったという「自己責

任」論に陥っていた姿から一つ抜け出せたようすも見えてきた。メラトニンの説明時には、「いつまでも明るい中で生活していると肌が老化してあつという間に老け込むぞー」と宮川節で引き込まれ、メラトニンがきちんと分泌されればリラックス効果も高まって、落ち着いた心を育てることができるとも話された。

率直な生徒の感想

次に宮川さんの報告にあつた高校生の感想を紹介したい。

●小学校中学校と昼夜逆転だったので、よくわかります。これからのためにもなおさなければいけないですね。(二年女子)

●今日、先生が言っていた悪い生活が中学の時の自分のままだったので、思わず笑ってしまいました。(一年男子)

●中学の頃、平気で寝ずにいたことが今日の話を聞いて恐ろしくなりました。昔は睡眠時間が四時間くらいでも平気だったのに、今ではもう二二時には眠いので、毎日きちんと眠れるよう

になってよかったです。(一年女子)

●今日の話を聞いて、自分の生活が崩れていることがわかった。寝ることの大切さがわかった。夜は暗い所でちゃんと寝ないといけないことが分かった。(一年男子)

●今日の授業で、睡眠の大切さがわかりました。中学校の時は動物でいう夜行性状態でした。夜中眠れず朝方に寝る生活でしたが、今はちゃんと寝れているので、きちんと睡眠をとろうと思いました。(一年女子)

●夜更かしはからだに悪いと言われる理由がよくわかった。(一年男子)

●生活習慣のこと、脳内物質のこと、よくわかりました。(一年男子)

●こうやって、生活習慣が崩れていくんだなあと思った。なるべく七時間以上寝るようにしようと思った。休みの日もなるべく崩れないようにして寝る時間起きる時間を気にしようと思いました。(一年女子)

●今自分が恐ろしいです。早く夜になって早く寝てしまいたいです。自分自身の力でうまく保

てる力が出ているのに、自分自身でだめにしてしまいました。もう、昔みたいな生活は送りたいくないです。そう思えるようになったのも、変われている証拠だと思いました。(一年女子)

●今日は凄くためになる話ばかりで、なるほど、と思いました。宮川先生の授業は内容的には難しいけど、わかりやすく楽しくかったです。からだの授業、たのしいです。(一年女子)

●自分が中学生の時に昼夜逆転していたことが分かったような気がします。まだまだ成長したので、生活リズムを改めて見直そうと思います。周りにも教えてあげたいと思いました。(一年女子)

宮川さんが教材として活用された「早起き

早寝 朝ごはん」は、子育てと子育て支援に役立つことが高校生の感想でも裏づけられている。

私立新名学園旭丘高校は神奈川県小田原市にある。実践報告をされた宮川雅道先生は、総合技術科という教科に属して、「からだ」の学習を担当され、実に興味深い教材を開発されている。